

生涯学習支援者研修1コマ事業

研 座 演 沙 資 映 他 体 ワ

神奈川県教育委員会
神奈川県教育委員会生涯学習文化財課
TEL 045-210-1111 (内8348)

実施年月日 実績等	生涯学習支援者研修		
	・「公民館担当者セミナー」 ・「男女共同参画アドバイザーセミナー」 ・「学習相談セミナー」 ・「学校と地域との協働セミナー」 ・「生涯学習ボランティアセミナー」	平成16年 6 月23日(水) 平成16年 6 月29日(火) 平成16年 7 月20日(火) 平成16年 7 月22日(木) 平成16年 9 月29日(水)	参加者:36人 参加者:47人 参加者:43人 参加者:41人 参加者:38人
主催(共催)	神奈川県教育委員会		
開催場所	神奈川県生涯学習情報センター		
対象	生涯学習・社会教育行政担当職員、公民館職員、女性団体指導者、PTA指導者、教職員、ボランティア活動実践者など		
人権課題	人権全般、子ども、女性、障害者、高齢者、外国籍県民		

事業の目的

「かながわ人権施策推進指針」にもとづいて行う事業。
神奈川県教育委員会主催の生涯学習支援者研修参加者が、参加体験型学習を通して、職務上必要な人権に関わる知識を身に付けたり、人権感覚・人権意識を高めたりすることを目的としている。
また、事業を企画・運営する県社会教育主事の力量を高め、県内の人権・同和教育を推進していくというねらいがある。

事業概要

生涯学習支援者研修の各セミナーにおいて、プログラムの1コマ(90~190分)を使い、人権・同和教育の参加体験型学習(ワークショップ)を実施している。
1コマ事業の企画・運営は、県社会教育主事(人権・同和教育担当)と県教育委員会総務課人権・同和教育担当の10人で構成される「人権・同和教育担当者会議」が行い、学習プログラムの作成、ワークショップの司会・助言など一切を担当している。

○公民館担当者セミナー

テーマ「公民館職員として心がけたいこと」
(対象者：公民館職員、社会教育関連施設職員など)
公民館・社会教育施設での人権学習の進め方の説明、およびワークショップ「ことば・表現から女性の人権について考えよう」を行う。

○男女共同参画アドバイザーセミナー

テーマ「一人ひとりが輝くとき～心の豊かさを実現するために～」
(対象者：女性団体・グループの指導者、PTAの指導者、企業の労務担当者、区市町村生涯学習・社会教育行政担当者など)
ワークショップ「イラストのつくりかたを考えよう」を通して、性別役割分担など男女共



「かながわ人権施策推進指針」

同参画の問題を考える。また、「権利の熱気球ゲーム」を通して子どもの人権について考える。



事前告知チラシ

○学習相談セミナー

テーマ「相談活動における人権」
(対象者：区市町村生涯学習相談員、区市町村生涯学習・社会教育行政担当職員など)
ワークショップ「コミュニケーション1・2・3」を通して、コミュニケーション(聴く・話す)の大切さを学び、人権感覚を深める。

○学校と地域との協働セミナー

テーマ「学校と地域とのイイ関係づくりのために」
(対象者：区市町村行政職員および教職員、社会教育関係団体関係者、ボランティア実践者など)
ワークショップ「悩み相談室」を通して、人権のベースになる人と人との関係について意識を高める。

○生涯学習ボランティアセミナー

テーマ「子どもたちを支えるボランティア活動」
(対象者：ボランティア活動実践者、区市町村生涯学習・社会教育行政担当職員など)
ワークショップを中心とした生涯学習ボランティアとして、子どものグループワーク及び体験活動やボランティア活動に関わっていくためのステップアップを図る。

特色・工夫した点

- セミナー受講者の職務に合わせた内容を取り上げ、具体的な場面を想定したロールプレイやグループワーク等を通して、職務上必要な人権に関する知識や人権感覚が身につくような学習プログラムを検討・開発し実践している。
- プログラム作成にあたっては、人権・同和教育担当者会議において、シミュレーションをしながら、時間をかけて綿密に検討を繰り返している。
- 和やかな雰囲気を作るためにアイスブレイキングを行うが、ただのゲームではなく、テーマに即した内容のものにして、ワークショップの導入となるよう工夫している。

○セミナー終了後に、参加者の感想・反応等も含めてプログラムの進め方や学習内容についての振り返りをし、次回に生かすようにしている。

実施結果

参加者の反応・事業の反響等

- セミナー終了後にアンケートを実施したところ、
- 聴くことの大切さを、相談員として改めて学べてよかった。
- 他市区町村の方とグループ学習ができて、楽しい思いをさせてもらった。
- 実践的で考えさせられる。反省すべき点が見えて、とても良かったと思う。人権の解釈にも、人によって様々であると感じた。
- 外に基準を求めただけの考えから、自ら判断できる感覚を磨く必要性、人権にかかわる勉強の必要性を感じた。
- あらゆる世代の意見を聞き合い、グループで考えをまとめていく作業も、とても良かった。コミュニケーションの大切さ、楽しさ、必要性を実感しつつ、学ぶことができた。
- 日常何気なくしている、言っていることが人権、差別に関連していることが理解できよかった。これを自分のところ(公民館)で、講座として開催できたらと思った。
- などの回答が寄せられた。

反省点・今後の課題

セミナー参加者が重複することもあるので、教材や講座内容が重なったり、同じような展開になったりしないよう十分吟味していく必要性を感じた。
研修の手法については、ここ数年は、ワークショップ形式を中心に行ってきた。今後もワークショップとともに、ビデオフォーラムや講義形式などの様々な方法をさらに効果的に取り入れ、参加者にとってさらに魅力的で充実した研修になるよう工夫していきたい。



この中のいくつかのアクティビティをセミナーで行った